

▼ペブレオ注射用 [注] <2025.3 販売中止>

【重要度】★★★【透析患者に投与禁忌】 【一般製剤名】ペプロマイシン硫酸塩 Peplomycin sulfate 【分類】抗腫瘍性抗生物質

【単位】▼5mg・▼10mg/V

【常用量】1回5～10mg

【用法】1週間に2～3回静注、筋注、動脈内注射

【透析患者への投与方法】透析患者の投与方法に言及した文献はないが、重篤な腎障害のある患者では排泄機能が低下し、間質性肺炎・肺線維症等の重篤な肺症状を起こすことがあるため禁忌 (1)

【保存期 CKD 患者への投与方法】腎障害のある患者では副作用が強く現れる恐れがあるため慎重投与 (1)

【特徴】ブレオマイシン同様、細胞の DNA 合成後期及び分裂期に作用し、DNA 鎖を切断する放射線類似作用を有する。肺毒性はブレオマイシンの約半分。ブレオマイシンと同様血液毒性がなく他薬と併用しやすい。

【主な副作用・毒性】間質性肺炎、肺線維症、アナフィラキシー、発疹、発熱、皮膚硬化、色素沈着、爪の変形、口内炎、口角炎、肝障害、貧血、白血球減少、頻尿、膀胱炎、頭痛、頭重など

【安全性に関する情報】総投与量は 150mg を超えないようにする (1)

【代謝】資料なし (1)

【排泄】尿中回収率 70～80% (1) 尿中未変化体排泄率は不明 (5) 膈壁または子宮頸部に持続注入したときの尿中回収率は 63.9%、皮下持続注入後の尿中回収率は 65.8% (中田好則, 他: 日癌治 22: 2282-7, 1987)

【t1/2】膀胱注入療法を生食で溶解すると 4.18hr, hydroxypropylcellulosum で溶解すると 51.0hr と貯留時間が長い (安本亮二, 他: 日泌尿会誌 11: 1765-8, 1988)

【蛋白結合率】10% (1)

【Vd】データなし (1)

【MW】1571.67

【透析性】資料なし (1)

【TDM のポイント】一般的に TDM は実施されていない【O/W 係数】資料なし (1)

【相互作用】胸部及びその周辺部への放射線照射は禁忌 (1)

【更新日】20240625

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。